

ECANニューズレター (仮称)

“Environmental Counseling Association of Nagasaki” newsletter

NPO法人 環境カウンセリング協会長崎(長崎県地球温暖化防止活動推進センター)

■ 発刊にあたり

ごあいさつ 「脱温暖化社会に向けて」

NPO法人 環境カウンセリング協会長崎
理事長 宮原 和明

○ ECANに期待されること

1992年にブラジルのリオデジャネイロで国連の環境開発に関する会議(サミット)でアジェンダ21が採択されました。アジェンダ21は持続可能な発展、つまり持続可能な地域社会づくりを担う主役は自治体であると述べています。

いま自治体は地域の特色を生かしながら、創造的かつ多種多様な施策・事業を戦略的に展開することを求められています。持続可能な地域社会づくりの過程には市民の主体的な参画によるパートナーシップ(協働)も不可欠になってきます。どの分野でも市民が行政に参画できる仕組みづくりが環境負荷の少ない環境のまちづくりでは重要だと考えています。

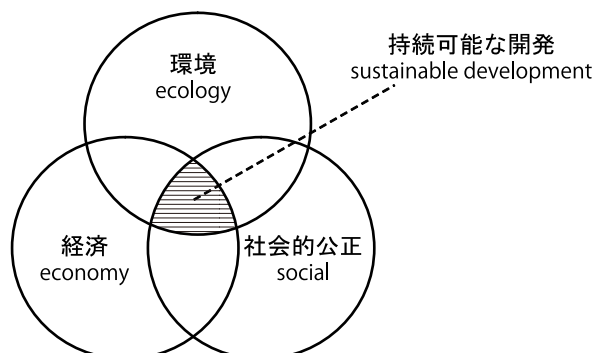
また良きパートナーシップづくりとは、行政、事業所、市民(とくにNPO、NGO等)といった異なるセクターが一緒になって脱温暖化社会づくりに向かって協働を深化させ相乗効果をあげることです。そのためには、各セクターの立場を理解し、違いを活かしつつ相互理解を深めることが重要になります。

私はECANの発足時から参加しておりますが、自省も含めてふり返りましょう。

- (1) 理事や会員は多様な人材が集まっているが、その多様性を生かす組織になっているか?
- (2) 理事や会員が脱温暖化社会づくりに向けてビジョンを共有し、組織として総合化されているか?
- (3) NPO法人として地域社会の認知度は高いか?
- (4) 異年齢、とくに若い人達が入りたいと思う組織になっているか?

などの項目を点検すると、まだまだ成長過程だと思っています。

我々の組織には、人材という宝があり、行政、事業所、NPO等を担う市民の人材がそろっています。そのため持続可能な脱温暖化づくりに向けて、各セクターのパートナーシップを深化させる組織としてECANは地域社会で期待されているのだと考えております。最後に私も微力ながら努力しますので、皆様のご協力よろしくお願いします。



Contents

- ごあいさつ「脱温暖化社会に向けて」 P 1
- 特集1「今どきのドイツ、環境紀行」 P 2
- 特集2「共通だが差異のある責任..」 P 3
- イベントレポート P 4
- お知らせ P 6



特集01

最初の特集は、ニューズレター発行を何度も呼びかけ、ECANのさまざまな活動に積極的に携わっていただいている矢野会員にお願いしました



今どきのドイツ、環境紀行 ✈

矢野 博巳 (環境カウンセラー、ECAN会員)

“セブニーイレブンみどりの基金”にお世話になり、10月10日から18日の9日間、「環境ボランティアリーダー海外研修」でドイツのマインツ市に行ってきました。そこでドイツ全土に40万人超の会員を持つ「ドイツ自然保護連盟(NABU)」や「ドイツ環境保護連盟(BUND)」などを訪問してきましたので、ドイツの環境NPOの活動の一端を報告します。

<200人に1人は環境NPO？>

国土面積は日本の95%、人口は65%ほどと、日本より少し小降りのドイツ。気候は日本の北海道に似ているとか。

そこに会員数40万人超の環境NPOが2つあります。日本の代表的な環境団体「日本野鳥の会」は約5万人、「日本自然保護協会」が約2万5千人なのと比べてもその大きさがわかります。ドイツの人口が8,200万人ですから、2つのNPOの会員を単純に足しても、ドイツ国民の200人に1人は環境NPOの会員になっていることになります。(すご〜い！ドイツ国民の環境意識の高さは、これで納得！)

<制度はドイツ、気質は日本>

ドイツでは、NPOの意見が政策に反映される制度(法律)があり、NABUでは年間1,000件以上の政策提言をしているそうです。また、若者を環境ボランティアとして受け入れる制度も整っており、国全体として環境政策に力を入れていると感じました。

しかし、実態は工事中の穴にたばこの吸い殻や紙コップが投げ込まれるなど、「環境意識のない50%の人たちに、いかに環境に関心を持ってもらうか！」が課題だそうです。(なあんだ、日本と同じ！)

今回の研修で、国民の環境意識やNPOの活動は決して日本はドイツに負けていないと感じました。そして、日本にきっちりとした環境政策が整ったら、ドイツに勝る「環境国・日本」になれると感じました。(詳しい研修報告は、後日ECANのHPに掲載します。)



【ナッケンハイムのブドウ畑にて】



【道路工事の穴に捨てられたゴミ】



共通だが差異のある責任。。。

吉田 雅文(環境カウンセラー、ECAN理事)

みなさんこんにちは！ それからニュースレターの創刊おめでとうございます。

私からは、ECAN事業として現在進行中の(財)環境保全再生機構・地球環境基金からの補助事業「インドネシア・ジャカルタ市における高校生環境教育事業」について紹介します。事業は一言で言うと、市場ごみの循環利用について、地元高校生との協働作業システムの構築です。循環利用については、日本と同様に片落ち程度で捨てられる野菜や果物を回収して、高校生がジャムやチリソースなどに加工するという「高付加価値商品化」と、どうしても捨ててしまう有機物の「コンポスト化」をメインとして進めています。ジャムやチリソースはとても美味しくて、将来的には活動の継続性のためにもフェアトレードなどへの展開も視野に入れています。

さてインドネシアについては、首都ジャカルタは人口は約2千万人、現在、発展途上の真っ最中ですが、公害問題と地球環境問題、廃棄物問題、グローバル化、貧富の格差など、先進国がこれまで経験してきた過去から現在までの問題が一举に発生している様相です。内政についても、大統領がスハルトからメガワティ、ユドヨノなどへと政権交代し、ここ数年は政局も安定せず、混沌とした状況の中、近代化が進められており、人々が安定した暮らしができるようになるにはまだまだ時間がかかりそうです。

しかし、環境施策については、朝夕のメインストリートでは自家用車に3人以上乗らないと通行できない規制や、縁石を切れ目なく設置して一般車を全くシャットアウトしたバスレーンなど興味深いものもありました。(もちろん裏話!もありますので聞きたい方はよしだまで(^_^))

こんな中、来年からいよいよ京都議定書の第1約束期間に突入します。「共通だが差異のある責任」

我々人間、各国々は、様々な価値観や倫理観を持って様々な活動を実施しています。今後、開発途上国からの温室効果ガスの排出量が急速に増加する中、環境先進国を標榜する国の一国民として、もう一度その責任について考えてみたいものです。

毎月2回、インドネシアの会として、ECAN、JICA長崎などのメンバーと情報交換会(飲みニケーション)をやっています。是非ご参加下さい！



【最終処分場のスカベンジャー】 【ジャカルタ市内のスモッグ】 【高校教師とのワークショップ】

裸足のScavenger(スカベンジャー：ごみをあさる人、動物)が、埋立の最前線でバックホウをかいくぐってプラごみを集めています。後で聞いた話ですが、その3日後くらいに事故で数名が亡くなられたそうです。ワークショップでは、原稿なし、英語でのプレゼンに“チョー”緊張しましたが、いい勉強になりました(^_^)v

イベントレポート



01 映画「不都合な真実」上映会

6月の環境月間に、アル・ゴア米国元副大統領が出演するドキュメンタリー映画「不都合な真実」を長崎市内3か所、佐世保市1か所で計11回、自主上映しました。

この映画は、地球温暖化問題の重要性を一人でも多くの方に伝えようとして作成されたものであり、世代を問わず、長崎市以外の地域からも大勢の方々にお越しいただきました。観客動員数2494人を記録し、温暖化問題への関心が高まりつつあることを実感することができました。

反響も大きく、様々なご意見・ご感想をいただいています(詳しい報告はホームページをご覧ください)。

たくさんのご協力をいただき、本当にありがとうございました。



02 そがんCO2なら！減らサンバ！～エコライフ・コンテストin長崎～

県代表が決定しました！！



7月15日～9月30日にかけて、県一体となって取り組む温暖化防止のアイデアを募集したところ、17件の応募がありました。

書類審査と11月10日に開催した県大会におけるプレゼンテーション審査を経て、チーム・リサイクル(し)隊の「元気菜！コンテスト」が最優秀賞に選ばれました。

最優秀作品は県代表として、2月に開催される全国大会に出場します。県一丸となって応援しましょうね！

(平成19年度「一村一品・知恵の環づくり」事業(環境省委託))



03 地球温暖化防止活動推進員研修会

8月から9月にかけて、長崎県内8カ所で温暖化防止活動推進員のための研修会を開催しました。今年はIPCC第4次報告書等の最新の動向について講演を行った他、実践力を高めるようなワークショップを行いました。

推進員研修会は今年で4年目ですが、残念なことに今年は出席率が50%を下回る結果となりました。実施者として今後の研修内容や実施方法について見直していく必要がありそうです。



04 長崎市エコアクション21自治体イニシャティブ・プロジェクト



長崎市主催、当協会EA21地域事務局ながさき共催によるエコアクション21認証・取得講座は関係者のご協力により予定通り終了しました。

参加企業:全体説明時(7月6日) 31社、団体

構築講座(8月～9月、6回開催) 12社

これを更に確実なものにするため、EA21審査人が参加企業を訪問して個別指導を行い、認証・登録まで持っていく予定です。

05 九州地域環境NPO事業評価プレゼンテーションへの参加

10月17日から北九州で開催されたエコテクノ2007におけるイベント、九州地域環境NPO事業評価プレゼンテーション(KENEP)にて、長崎代表ECANとして自転車再生委員会がプレゼンテーションを行いました。

学生のみで活動していた頃の自転車再生委員会が抱える様々な問題が、ECANとして活動することによりどのように改善されたのか。以上のような視点でプレゼンテーションを行いました。入賞しなかったものの活発な質疑応答が行われ、興味を持っていただいたと感じました。



■ ネーミング募集！

「ECANニューズレター(仮称)」のネーミングを募集します。(締切:2008年3月31日)

■ 記事募集！

次号のニューズレターにあなたの書いた記事を掲載しませんか？環境や温暖化問題に関する記事を募集します。

また、ニューズレターへのご意見やアイデアもお寄せください。

■ 会員募集中！

環境についてともに考え活動しませんか？

環境カウンセリング協会長崎は、中立な立場から市民、事業者、学術機関及び行政のパートナーシップの形成を図り、それぞれの環境への取組みを支援することを目的に設立されました。

循環型社会を根付かせ、人と自然が共に生きる心豊かな長崎を創るために、企業、団体、学術機関、行政そして市民としてそれぞれの立場からのご支援とご協力をお願い致します。

○ 年会費

会員の種類	入会金	年会費
個人会員	1,000円	3,000円
学生会員	—	1,000円
企業会員	—	10,000円
団体会員	—	30,000円
賛助会員	—	1口(50,000円)以上

○ 現在の会員数(平成19年12月現在)

学生会員7名、個人会員60名、企業会員34社、団体会員7団体

○ 理事の構成

宮原和明(長崎総合科学大学教授)、島田雅行(長崎三共有機株)、時田雄次(学術博士)、堤 俊明(環境カウンセラー)、武政剛弘(長崎大学教授)、早瀬隆司(長崎大学教授)、小曾根洋(長崎県中小企業団体中央会)、菅 洋一(株エコシステム)、奥 真美(首都大学東京教授)、川口孝範(有T・N・C・エスコ)、石橋康弘(長崎総合科学大学准教授)、吉田雅文(長崎市環境保全課)、山田知代(ばってんキャンドルナイト実行委員会)、空閑次男(エコアクション21地域事務局ながさき)

○ お申し込み・問い合わせ先

環境カウンセリング協会長崎

TEL(095)818-3305/E-mail:info@npo-ecan.org

■ ホームページについて

当協会ではホームページを開設しています。団体の紹介、活動スケジュールや活動報告、その他環境紙芝居、キャンドルナイトなどの情報を掲載しています。是非ご覧ください。

(<http://www.npo-ecan.org/>)



■ 編集後記

祝・ECAN広報誌第1号！！

事務局に送られてくる他団体の広報誌をたくさん参考にし、試行錯誤して完成しました。

皆さんいかがでしたでしょうか？至らないところも多々あるかと思いますが、皆さんのご意見をもとに徐々にいいものを作っていけたらいいなと思っています。

さて、今年ももう終わりですね。社会人になってからというもの月日が経つのが早く感じられます。毎日頑張っている証でしょうか!?(*_^*)

そして京都議定書の約束期間まであと少し。ECANを通じてもっともっと人のため、地球のために頑張ろうと思う今日この頃です。



(ECAN事務局 シオガマ)

■ ECANニューズレター (創刊号)

発行：NPO法人 環境カウンセリング協会長崎
Environmental Counseling Association of Nagasaki (ECAN)

〒850-0004 長崎市下西山町7-5

TEL (095) 818-3305 FAX (095) 826-3693

<http://www.npo-ecan.org/>

2007年12月20日発行